

感想文特集

その2

10・11
三里塚闘争
に参加して



独自集会ののち、青年部を先頭に、さあ出発だ！ 450名の勤労千葉隊列。(10/11、11時、成田空港区)

政府・空港公団による「成田用水」攻撃、これと連動して加えられてきた革マルのデマ攻撃——三里塚二期攻撃は完全に決戦段階に突入している。10・11集会一万三千五百の大結集、用地内反対同盟の火をふくような怒りの総決起と「用水粉碎」「革マル弾劾」決議の圧倒的確認、全参加者は勝利の確信をしっかりとつかんだ。とりわけ勤労千葉四五〇名・国労共闘一五〇名を先頭とした労働者本隊(労組連)三千五百名の堂々たる登場は、「三里塚―国鉄決戦」を基軸に、82年秋季・年末から83年にむけた壮大なゼネスト的階級決戦の勝利の展望を大きくたぐりよせている。更に確信高く前進しよう。前号にひき続き、10・11集会参加者の感想を紹介する。

三里塚は勝利できる！

成田支部(三二才)

敵の「用水・革マルデマ」攻撃に対し、反対同盟は断固これを粉碎すべく、ためらいなく弾劾声明を発した。増々勝利の確信は深まった。「勝利できる!!」十・二一―二四を前に「三里塚なくして、反戦・反核なし」の言葉が心に蘇った。労農連帯の旗の下、わが勤労千葉は十・一一を四五〇名の隊列で闘い、秋期闘争の口火を切った。この力で五七・一一を粉碎し、「三里塚を闘う労働運動」を全国に拡大し、反動政府打倒に向け、勤労千葉の鉄輪旗を最先頭に掲げて行かなくては、と思った。

二期阻止への確信もった10・11

木更津支部(二〇才)

目前にせまる三里塚二期工事や、成田用水等による政府権力の反対同盟に対してのゆさぶりなどは、十・一一に参加した人たちを見ている限り、粉碎できると思った。

すさまじい攻撃、を痛感―
われわれも闘うぞ

幕張支部(二一才)

今日、三里塚闘争にかけられている攻撃は、すさまじいものがある。私は現地闘争に参加して身にしみて感じざるをえなかった。まずショックな事は、同盟内部からの裏切り、自分たちの欲とエゴによつて成田用水という物取り闘争に成り下つてしまふという一番最低な事になつてしまつたからである。だが、真に闘つておられる同盟の方々は、そんな事にへこたれず、意気軒昂と闘い抜いているではないか。我々もこれに続け。そして完全勝利の日まで断固闘い抜かなければならないと思う。

勤労千葉と国労共闘、計600名の国鉄労友者は共ニストラムを組んで力強く前進。



(10/11、16時すぎ、三里塚現地)

力強さを感じた

千葉転支部(四二才)

雨の中非常に多くの人達が集会に参加したのにびっくりした。雨の中バス三台で会場に向かったが、やはり多くの人達の参加は、力強さを感じると共に、職場でも闘う姿勢をくさず立ち向うことが敵の攻撃をぶつとばす最大の力であると思う。

新たにした、廃港への決意

館山支部(二五才)

まず、集会・デモを威圧するような、ジェット機の排気音に自然と怒りを感じました。デモコースから見えかくれる空港と、それを取り囲む緑り豊かな北総台地、やはりここに空港は似合いません。断固空港廃止にと、決意を新たにしました。

臨調・行革粉碎ノ三里塚ジェット闘争勝利ノ

この上ない集会だった
―カップ・長ぐつで参加―

勝浦支部(二七才)

ぽつぽつと雨、ぬかっている公園内の中貫徹された集会、ほとんどの人は、カップ・長ぐつであった。これは長い三里塚の闘いを物語っているし、闘いへの意気込みの様でした。

そして反対同盟の初心を貫く姿勢、悪天候での今までにない一味違う集会場の盛り上がり、これは最終段階に向けて、三里塚勝利の確信を深めるうえで、このうえない今回の集会だったと思います。労農連帯で闘争勝利！

はじめて参加した三里塚

蘇我支部(十八才)

三里塚の動員にはじめていって、あれほどたくさんの方が集まるとは思わなかった。みんながんばっていたけれど、デモ行進は、あんな暗い所を歩かないで、もっと人がみている所をデモすればいいのになと思った。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！